

# ふくろう新聞

<発行>  
 特別養護老人ホーム  
 淡路ふくろうの郷  
 広報委員会  
 洲本市中川原町中川原 28 番地 1  
 TEL: 0799-25-8550  
 FAX: 0799-25-8551  
 ホームページ  
<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

「日本の法・政策が父権主義的アプローチである」この9月に国連障害者権利委員会が条約に基づく政府の施策に関して初めての勧告です。父権主義的とは障害者を恩恵の上から目線で保護した法制定との批判であると佐藤久夫先生の見解です。優生保護法問題もそうですが最も弱く反抗しにくい人々への尊厳を踏みこむ政策が強まるなかです。10月25日、日比谷野外音楽堂に結集した二五〇〇人は希望です。



## 10周年記念式典

### 上崎市長のごあいさつ

10月23日(日)午前9時半、中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターにおいて10周年記念式典を開催しました。

平成24年7月にふれあいセンターが誕生し早や10年、この日を中川原の皆様、そして上崎市長はじめ浜田県会議員、古倉中川原連合町内会長等の関係者の皆様方62名と迎えることができたことを大変嬉しく思います。

また、感謝状贈呈式ではふれあいセンターが開所してご支援ご協力をいただいている、「おたがいさま中川原事業」の応援者として地域の困りごと解決・軽減にご尽力いただいた中谷正弘様、100歳体操・デイサービス桜ヶ丘に元気と笑顔をお届けしてくれる後藤州永様、開所以来様々なイベントに参加いただき地域の活性化にご尽力いただいている「木曜会」の代表者様の3名に贈呈されました。

10月23日(日)午前9時半、中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターにおいて10周年記念式典を開催しました。

記念講演「ありがたうの心でつながる地域づくり〜誰もが役割のある社会をめざして〜」認定NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路理事長木田薫様のお話もいただきました。これからも運営委員会を中心に、ゆつくりとでも着実に発展していくよう努力してまいります。(中川原高齢者・障がい者ふれあいセンター 事務局 濱田良介)



木田薫様による記念講演



感謝状代表3名に贈呈



10年のあゆみを写真で振り返る

## ふくろうふれ愛まつり 次第

(13:30~15:30)

- ・開会のことば 事務長 橋詰 恭子
- ・永年勤続(10年)表彰 4名  
竹内マリ子(淡路ふくろうの郷)  
土井 素子( // )  
岡山 保子( // )  
楠本恵利子(淡路聴覚障害者センター)
- ・庄崎隆志&ふれあい座・手話講座担当職員によるパフォーマンス
- ・閉会のことば 自治会副会長 吉見輝子



## 第16回ふくろうふれ愛まつり



▲左より職員の岡山・楠本・竹内・土井

「これからも元気に楽しく仕事をしたい」「もう少し頑張って働きたい」など職員よりひと言をいただきました。

法人職員が働きやすい環境と一緒に作っていきたいと思います。よろしくをお願いします。

弘統)

しんで頂けるようになればいいな  
と思います。(生活援助係 川崎

10月23日(日) ふくろうふれ  
愛まつり第一部中川原高齢者・障  
がい者地域ふれあいセンター10周  
年記念式典に、入居者を代表して  
ふくろうの郷自治会長の松崎恵子  
さんと副会長の吉見輝子さんが出  
席し、講演の時には真剣な様子で  
話に聞き入っていました。昼食は  
豪華弁当です。入居者さんは「き  
れいだ」「量が多いな」等と言わ  
れながらもおいしいそうに食べら  
れていました。

その後、庄崎隆志さんとふれあ  
い座による手話歌やパントマイ  
ム、ひげダンス等があり、手話歌で  
は職員と入居者の皆さんが一緒に  
歌い盛り上がりました。  
また、ひげダンスに併せてマシ  
ュマロキヤッチをしました。リハ  
ーサルでは上手く口でキヤッチで  
きたのに、本番では緊張もあるの  
か成功できず笑いが起こりまし  
た。

現在コロナ禍という事もあり、  
規模は縮小されていますが、また、  
たくさんの人に来ていただいで楽



# ふくろう物語 松本 松枝様

昭和9年11月10日生まれの88歳。6人兄弟の末っ子として一宮町遠田で(現・淡路市)生まれ育ちました。

本人と長男・長女様からも話をお聞きしましたが幼少期の頃については詳細がわかりませんでした。又、平成7年阪神淡路大震災で被災したため、若かりし頃の写真は残っていないのが残念ではありますがご了承ください。



20歳の頃に北淡町斗ノ内(現・淡路市)に嫁ぎ、一男二女に恵まれ、7人家族で生活されてきました。ご自宅では牛を飼い、稲作等の他にご主人と一緒に土木作業の仕事をしていたそうです。朝早くから夜遅くまで仕事をしていることが多かったようです。

平成7年阪神淡路大震災の時に、被災して自宅は全壊しましたが、ケガはなく無事でした。隣の納屋が鉄筋で被害がなかったため、なんとか生活を再建することができたそうです。

**病との闘い**  
働きづめだったためか体を壊してしまいました。そして土木の仕事を辞めて無理しない程度に農業をして過ごされてきました。しかし、7年前に夫が他界してからは独居となりました。3年前から人工透析が必要となり、入退院を繰り返していました。

ふくろうの郷へはショートステイを経て、令和4年4月20日に入居されました。入院中の主治医が入居して初めての回診に来られた時に、松枝さんが「目の痛みがあり眼科に受診に行きたい」等と話が止まりません。その様子を見て主治医は入院中はベッドの上で横になってずっと目を閉じておられる印象がなく、これまで知っていた松枝さんとは違う姿に大変驚いておられました。

人工透析を週3日受けておられるため、行事にはあまり参加されず、居室で身体を休めて過ごされる時間が長いです。これからも本人の体調に合わせて、より心地よく過ごして頂けるよう支援していきたいと思っております。  
(生活援助係 山田繁和)



◀6年前に外出先で笑顔の松枝さん

## 淡路ブロック老人福祉事業協会給食関係研修会

10月7日(金)、給食関係研修会(オンライン開催)に参加しました。

今回の研修テーマは「介護施設における食品物性と疾患特性を生かした摂食・嚥下支援」で、はなすたべるくらす舎の代表高田耕平様の講義をお聞かせいただきました。嚥下機能の低下から引き起こされる誤嚥性肺炎は、体力の落ちた高齢者にとっては重要な問題です。今回の講師は嚥下のプロである言語聴覚士であることもあり、管理栄養士の私が知らなかったこと、例えば「舌でつぶせる」「歯茎でつぶせる」はといったどのくらいの固さを指すのか?具体的な舌圧の数値や食材の固さを簡単に測定できるツール、またそのツールを用いて在宅の方の食事を評価し、摂食量を上げていった事例もご紹介いただきました。

当施設の食事の入居者ひとりひとりに合わせられるような様々な形態で提供していますが、その食事形態は正しいのか?確実に評価できるようにしておくこともとても大事だと感じました。  
(管理栄養士 秦 奈津子)

**いつもご支援  
ありがとうございます**  
地域交流会の宇城守さんより柿をいただきました。

# 人生の最終段階における対応向上研修会 介護職員のために

実践経験はまだ少ないのですが、言葉のかけ方・言葉の選び方や、どうすれば本人と家族様が近づけられるか、その人に対して何を優先するべきなのか、色々悩むときもありました。

しかし、今回の研修で工夫していること、気をつけていることを聞き、今後、看取りの場面の看護に繋がるヒントをたくさんいただけました。例えば、アロマディフューザーを居室に配置する、家族様や思い出の写真をお借りして飾る、日頃からその

10月27日(水) 介護職員等の人生の最終段階における看取りケア対応向上研修会(オンライン)に参加させていただきました。今回の研修で学んだことで、私が特に大事にしたいと思ったことは、「家族様が利用者様の最期まで一緒に過ごしていただければ」 「最後までできるだけその人らしく過ごすことができる」 「その方の好きなこと・食べ物」を提示できる環境を整えていきたいと考えました。

## アンガーマネージメント研修

10月5日に、アンガーマネージメント研修をオンラインで受講しました。講師は神戸心理療法センターの高井祐子先生です。

アンガーマネージメントは、以前から興味があったテーマでした。というのも、時に業務中に小さな怒りを感じる瞬間があり、また業務後もその感情の整理がつかないまま帰宅することがあるためです。対人援助職である介護業務では特に感情のコントロールが重要になってくるので、是非身につけたいと思って講座に臨みました。

受講した事で意外と、普段から怒りを感じている場面が多くあるのだと気づかされました。自分の性質を知ること、自分がどのような事に怒りを感じる人間であるのかを客観的に考えることができました。

また、怒りの発生のメカニズムの中に、「〇〇であるべき」という自分の認知(価値観)が大きく作用していることを学び、「そうとも限らないのでは」と見方を変えることで怒りをコントロールできるのではないかと思います。

怒りを感じる自分を否定するのではなく、感じた怒りを適切にマネジメントして、行動をとる。そうすることで、お互いの人権を尊重し、ハラスメントや差別のない職場環境、社会にしていきたいと考えさせられる研修会でした。

(生活援助係 酒井裕子)



方が大切にしてきた物や価値観、人とのつながりなどについてお話をうかがっておくなど私も今後、取り入れていきたいと思いました。

工夫していること、心がけていることなどは普段忙しい業務の中で語る機会が少ないため、先輩職員がどんな考え方をもちてケアに臨んでいるのか聴けたのはとても貴重な経験でした。

(生活援助係 畠ひづる)



## 11月・12月 ふくろうの暮らし

- 11/15(火) ふくろう大学絵手紙講座  
インフルエンザ予防接種
- 11/18(金) 回想法  
インフルエンザ予防接種
- 11/19(土) ふくろう大学書道講座
- 11/23(水) ふくろう喫茶
- 11/25(金) ふくろう大学料理講座
- 12/ 5(月) ふくろう理髪店
- 12/ 6(火) ふくろう大学演劇講座
- 12/ 7(水) 誕生会
- 12/ 8(木) ふくろう工房 手芸
- 12/14(水) クリスマス会

# 10月移動相談・家庭訪問 五色地域に行ってきました(10/19)

淡路は交通が不便な地域が多く、特に高齢者にとっては移動が大変です。みなさん、センター職員の訪問を心待ちにしてくれており、うれしそうに近況報告をしてくれます。センターも生活ニーズをお聞きし、必要に応じ関係機関に繋いでいきます。

淡路聴覚障害者

センター便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3階

お留守の方に  
はふくろう新  
聞をお届けし  
ています



難聴のTさん(30歳)、3人の子育て中。手話通訳派遣のことや同障者の子育ての情報も聞きたいようでした。いろんな情報をお伝えしていきたいです。

老人ホームに入所中のSさん(75歳) コロナ禍のため3年ぶりの訪問です。最近奈良へ行き、楽しかったし、11月から介助者と外出できるようになったので楽しみと話されていました。

今年90歳のJさん。とてもお元気で訪問時は畑で芋ほりの作業中。センターの職員の顔を見るなり「1年ぶりやなあ!!」と訪問を喜んでくれました。デイサービスやヘルパーを利用しながら畑仕事にも精を出しお一人で元気に暮らされています。

息子さん(40歳)はくすの木学級に参加を楽しみにしていると母のお話。おのころの家の通所もお誘いしました。



## 第4回社会生活教室

(9月28日)

### 介護保険、ケアマネさんに聞いてみよう!!

今は若いけれど将来介護が必要になった時、また夫婦だけ、または一人暮らしで高齢になり、日常生活に不安を感じたとき、あなたならどうしますか。  
「そうだ! ケアマネさんに聞いてみましょう。」  
今回は居宅介護支援事業所桜が丘でケアマネジャーをされている萩原孝氏に介護保険の申請や認定調査、どんなサービスが受けられるのか、どれぐらいお金がいるのか、など丁寧にお話をいただきました。  
参加された方は高齢の方が多く、真剣に耳を傾け、説明が終わったあと、自分の場合だと、どこに相談に行けばいいのか。こんなサービスを受けると費用はどれくらいかかるのか等具体的な質問が相次ぎました。また、介護保険料を支払いながら、なぜサービ

スを利用するとまた高額な費用を支払わなければならないのか、お金がないとサービスも受けられない、など疑問や意見も出て、関心の高さがうかがわれました。  
萩原氏は「困ったときは身近なケアマネさんに相談すれば、相談内容に即して分かりやすく説明してくれます」と話されました。

(岡本久子)



▲ケアマネの萩原さんの話の後、質問が相次ぎました

# 神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1  
 〒653-0836 電話…0778 798 798 7940  
 FAX…0778 798 7941

## 異文化交流 ～スリランカ～

10月10日からダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業の研修生が、ふくろうの杜に came ました。スリランカのカヴィンダさん、聴覚障害者です。13日と20日は難聴デイサービスでの研修です。自己紹介は日本語で、自分の名前はカタカナで書いてくれました。「日本語が書けるの?」と皆さんもビックリでした。

スリランカの紹介や食事の準備を一緒にしました。利用者さんとの会話は職員が彼の手話を読み取って文字で伝えたり、利用者さんの中には英語で筆



談する方もいて楽しい時間を過ごしました。(生きがい) 責任者 木谷玲子

## 初めての体験がいっぱいの水族館へ



▲ドクターフィッシュに角質を食べられてきれいな手に♪

お出かけ行事(仲間からの意見を反映し、月1回社会見学をしています)、神戸平野ふくろうの樹のすぐ近くにある「みなとやま水族館」へ行きました。

今年の夏にオープンしたばかりで、座って見たり、寝ころんで見たり、じっくりと観察ができる工夫がされています。

触れ合い体験コーナーのドクターフィッシュでは、水槽の中に手を入れると一斉に魚達が寄って来ます。「くすぐったい」「びっくりしたあ〜」

初めての体験をしました。朝食はカレーを食べました。9種類のルーからお好み2つをチョイス。じっくりと味わって美味しかったね。ゆったり過ごせました。

明日からまた仕事を頑張ろうと英気を養えることができました。

(生活介護 秋田 京子)

## 防災(避難)訓練に参加して

10月9日(日) 新長田北安心・安全防災福祉コミュニティの防災訓練にふくろうの杜の職員4名で参加しました。10時をめぐりに自宅から蓮池小学校まで避難する想定です。

10時、集合。最初に、数名の方が「非常時の持ち出し品」を持参して、どのような物を持ち出したのか、必要なものは何なのかのチェックです。次に参加者が4班に分かれて、順次、仮設トイレの設置、段ボールベットの組み立て、BDの使い方。ストッキングやスパーの袋、ラップ等を使った応急手当の方法を学んだり、また、簡易水道、蛇口設置の仕方を体験しました。

実演として、広域緊急警備隊の皆さんが、ショベルやハンマーなど21kgの荷物を肩に、日ごろに訓練しているとお話の後、実際にそれらを使って、ブロックを割ったり、鉄パイプを切ったりの様子を披露。最後に毛布とパイプ2本を使って担架を作り怪我人、病人を搬送する様子を消防隊の皆さんが見せてくれました。

今回、ふくろうの杜からは聞こえる職員の参加となりましたが、実際、杜には聞こえない職員、利



▲目の前で設置した簡易トイレ 女性でも持てる軽さです

用者もいます。災害はいつ起こるか分かりません。聞こえない人にとって、地震は揺れを体感できるが、風水害や火事、竜巻は危険を察知することが難しく、気づいた時には危険が迫っています。防災で言われる「自助」「共助」「公助」ですが、聞こえない人にとっては背後に危険が迫って、誰かが危ないと叫んでも伝わりません。つまり聞こえない人にとっての「自助」とは聞こえない人に向けての情報があつての「自助」なのです。

ふくろうの杜には「聞こえない人」のその様な状況を社会に啓発していくかねばならない役目と責任があります。そして、将来起こりうる災害に、ふくろうの杜が如何に地域の施設としてお役に立てるのか。共に考えていかねばならない大きな課題です。(神戸長田ふくろうの杜

管理者 眞木崇江)